

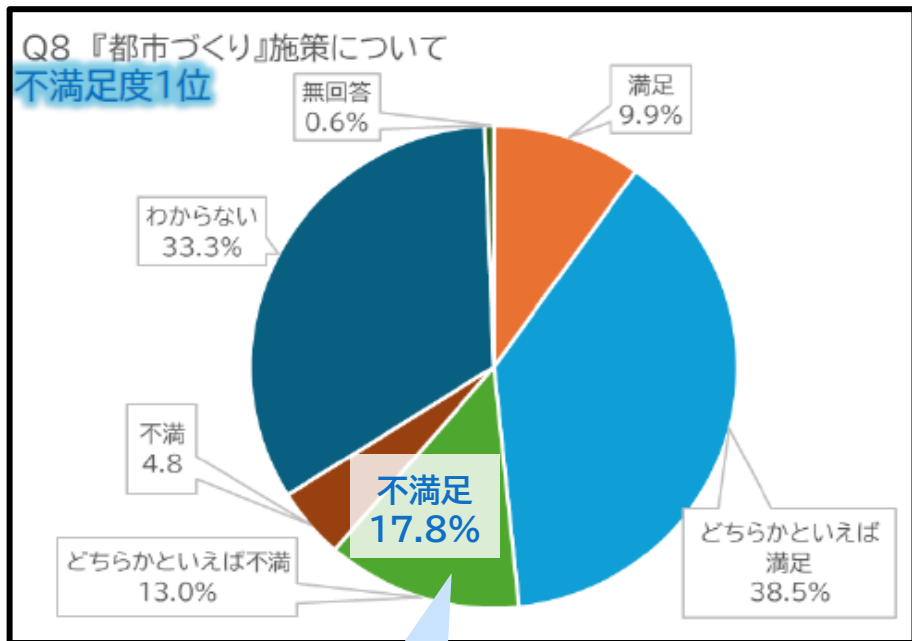
施策評価報告書（施策 3－3 都市づくり）

令和 7 年 11 月 7 日
政策経営部・まちづくり部

施策3-3 都市づくり（分析）

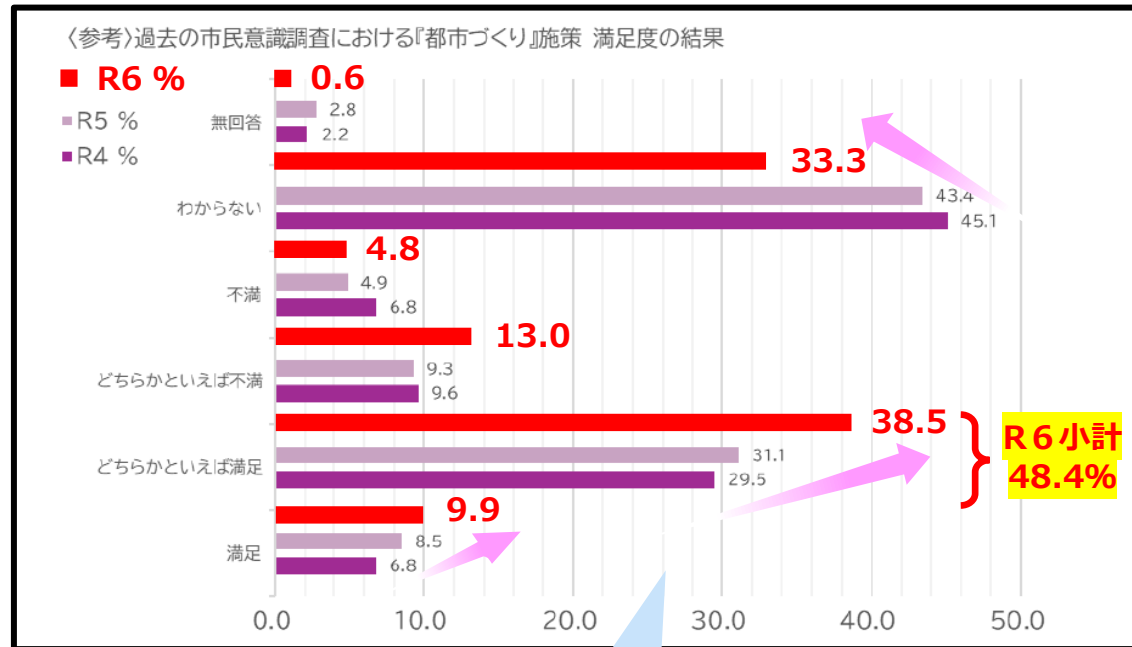
政策経営部・まちづくり部

1



- 重要施策12分類の中で、**不満足度がNo. 1**

一方で



- 市民満足度は年々増加 (R6 : 38.5%)
- 「わからない」という選択肢の割合が大幅に減少 (R6 : 33.3%)

⇒不満足な理由は「都市基盤施設の整備」や「駅周辺まちづくりの進捗」といった、いわゆるハード施策には相応の時間を要し、短期で成果が見えづらいことが要因であるため、と推察 (例：新設道路の供用開始、まちびらき)

⇒満足度が高い理由は、インフラの「整備」に対する評価が高い (自由意見) ことや、「都市マス改定」や「拠点まちづくりの検討」などにおける多様な「市民意見聴取」や「周知啓発」の取組が奏効しているため、と推察

都市マスタープラン改定に向けたオープンハウスの様子



出典：東大和市民意識調査報告書p.84

『都市づくり』の満足度 × 回答者属性

		回答者数	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	わからない	無回答
年齢	10代	件数 11 % (100.0)	2 (18.2)	3 (27.3)	1 (9.1)	0 (0.0)	5 (45.5)	0 (0.0)
	20代	件数 88 % (100.0)	11 (12.5)	31 (35.2)	7 (8.0)	2 (2.3)	37 (42.0)	0 (0.0)
	30代	件数 156 % (100.0)	16 (10.3)	71 (45.5)	14 (9.0)	3 (1.9)	51 (32.7)	1 (0.6)
	40代	件数 175 % (100.0)	16 (9.1)	54 (30.9)	24 (13.7)	15 (8.6)	64 (36.6)	2 (1.1)
	50代	件数 196 % (100.0)	18 (9.2)	65 (33.2)	29 (14.8)	14 (7.1)	69 (35.2)	1 (0.5)
	60代	件数 193 % (100.0)	16 (8.3)	68 (35.2)	33 (17.1)	7 (3.6)	69 (35.8)	0 (0.0)
	70代以上	件数 180 % (100.0)	9 (5.0)	92 (51.1)	22 (12.2)	7 (3.9)	37 (20.6)	1 (0.6)
	無回答	件数 10 % (100.0)	0 (0.0)	4 (40.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	4 (40.0)	1 (10.0)
				約6割				

（1）年齢クロスによる考察

- 年代が上がるにつれて、「わからない」の割合が減少
- 高齢者世代は道路や河川の整備など、まちの変遷を実感できていることが、大きな要因の一つであると推察

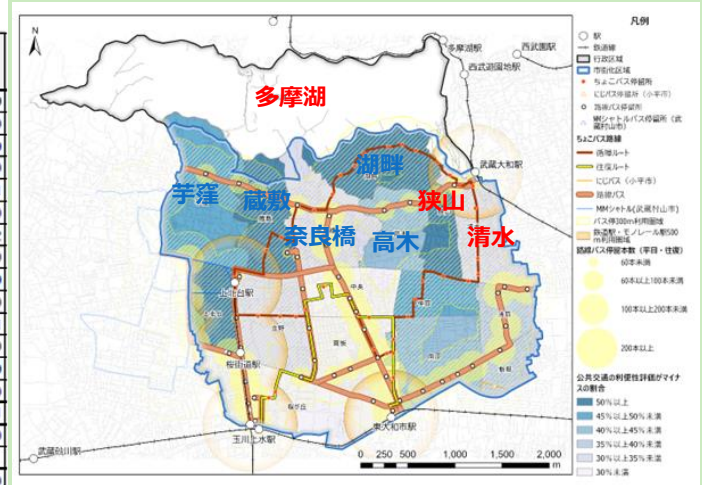


『都市づくり』の満足度 × 回答者属性

		回答者数	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	わからない	無回答
お住まいの地区	芋窪・蔵敷地域	件数 114 % (100.0)	11 (9.6)	44 (38.6)	28 (24.6)	4 (3.5)	27 (23.7)	0 (0.0)
	奈良橋・湖畔・高木地域	件数 97 % (100.0)	10 (10.3)	40 (41.2)	18 (18.6)	4 (4.1)	25 (25.8)	0 (0.0)
	狭山・多摩湖・清水地域	件数 97 % (100.0)	22 (22.7)	32 (33.0)	5 (5.2)	8 (8.2)	29 (29.9)	1 (1.0)
	上北台・立野地域	件数 136 % (100.0)	13 (9.6)	54 (39.7)	16 (11.8)	7 (5.1)	44 (32.4)	2 (1.5)
	中央・南地域	件数 156 % (100.0)	13 (8.3)	62 (39.7)	19 (12.2)	8 (5.1)	54 (34.6)	0 (0.0)
	仲原・向原地域	件数 139 % (100.0)	12 (8.6)	54 (38.8)	7 (5.0)	2 (1.4)	63 (45.3)	1 (0.7)
	清原・新堀地域	件数 69 % (100.0)	8 (11.6)	19 (27.5)	10 (14.5)	6 (8.7)	26 (37.7)	0 (0.0)
	桜が丘地域	件数 175 % (100.0)	10 (5.7)	78 (44.6)	23 (13.1)	7 (4.0)	56 (32.0)	1 (0.6)
	無回答	件数 26 % (100.0)	1 (3.8)	5 (19.2)	5 (19.2)	2 (7.7)	12 (46.2)	1 (3.8)

（2）地域別クロスによる考察

- 狭山・多摩湖・清水：5割5分が満足
- ×奈良橋・湖畔・高木：2割5分が不満
- ×芋窪・蔵敷：3割弱が不満
- 「都市機能の立地状況」や「土砂災害警戒区域の指定状況」などに顕著な差異が見られない中で、公共交通の利便性に対する評価の違いが、後者2地域の不満足度の高さの要因の一つであると推察



出典：令和7年度立適・交通計画アンケート調査
「公共交通の利便性評価がマイナスの割合」

【施策３－３都市づくり】で取り組んでいる**主要な駅周辺（東大和市駅・上北台駅）の拠点形成**に向けた取組だけでなく、**【施策３－４道路・公共交通】****【施策５－１自然環境】**と連携した取組が必要なことが分かる

（１）現状と課題

- ① **都市づくりへの満足度**は年々増加傾向にあるが、**不満足度**が他施策の中で**ワースト1位**
その一方で「**わからない**」という選択肢の割合が**大幅に減少**
⇒都市づくりを「見える化」する取組が必要かつ有効
- ② **高齢者世代の満足度は高く**、また、**インフラの整備に対する評価も高い**
⇒**道路・公園・河川など都市基盤施設の着実な整備等が必要**
- ③ 相対的に**交通不便地域における満足度が低い**
⇒**都市機能の集約・誘導と公共交通ネットワークを連携させた取組が必要**



（２）取組の方向性

- ① 都市づくりの進捗を実感できる PR・イベント、実証実験、スモールコンセプションの実施
- ② 都市計画道路（3・4・17号線や3・4・26号線）の整備、狭山緑地フィールドアスレチックの改修
- ③ 公共施設再配置計画との整合が図られた、立地適正化計画と地域公共交通計画の一体的な策定